

京都府産業廃棄物減量・リサイクル推進ネットワーク協議会 議事要旨

- 1 日 時 平成23年12月20日（火） 午前10時～12時
- 2 場 所 京都工業会館2階 第1会議室
- 3 議 事

- 京都府産業廃棄物減量・リサイクル支援センター（以下「センター」という。）の活動状況等について報告
- センターの次年度事業計画案について検討
- センター法人化に向けて協議

4 主な意見等

（1）センターの次年度事業計画案について

- 企業の先進事例集の作成案について、トップランナーの事例だけではなく、内容的に幅を持たせた事例も扱っていくとよい。例えば、ゼロエミ活動に取り組みだしたばかりの企業の事例は、中小企業にとっては有意義と考えられ、また、失敗例等も大変参考になる。
- 企業の先進事例等を紹介する場として、冊子やパンフレットだけではなく、HPをもっと活用すべき。また、産廃業者の取組事例等も有用であり、HPで掲載してはどうか。
- センターHPに質問コーナーのサイトを設けるのも、事業の利用促進、センターの周知が期待できる。
- 社内研修を対象にした講師派遣等の事業は、非常にニーズが高いと考える。企業においても、社内教育は重要であり、苦勞もしているところ。特に、法令は内容が複雑なこともあり、ゼロエミに関する助言・指導と法令解説を併せた研修は価値がある。
- 現在のセンター事業について、積極的に仕掛けていくべき。例えば、先進事例集を作成するにあたって、直接企業に取材に行くなどして、企業とのネットワークを拡大させていくとよい。

(2) センター法人化について

<法人化の方向性について>

※センターの一般社団法人化については、異議無く了承。

※今後、事務手続や定款、各規定について精査していくこととなった。

<センターの名称について>

※現在の名称のままとするか、法人化を機に簡略化した名称への変更等について検討。法人化までに整理することとなった。

- 現在の名称は長く、センターを認知してもらう上で問題がある。法人名は短い方がよく、法人化を機に名称を変更すべき。
- 定款の目的や産廃税を充当している性質、支援事業を明確にする点からも、「産業廃棄物」というキーワードは必要。
- センターの事業目的からみれば、「産業廃棄物3R支援センター」という名称は一案である。